



## 空間の形成

令和6年7月1日

黒田 毅

空間の拡大は3次元において与えられ、ビッグバン以前の世界が空間を得ないことが空間の拡大をそのスピードとともに形成すると仮定する。これらが一定数のエネルギーの拡大を行うと考える。このビッグバンという現実が空間の拡大を形成すると定義するものである。これらは空間の形成以前の世界が存在し、これらビッグバンが無限のエネルギーの解放でなく、定数のエネルギーであるという仮説は、ビッグバン以前の存在性への考察を提起できるのである。存在以前のゼロという現実が有するエネルギーの解放がこれであると考えられるものである。

振動という現実、 $E=mc^2$ という定式と  $m=E/c^2$ という定式において、エネルギーの凝固性が、物理現実の形成を有するという仮説において、振動が基盤であり、エネルギーが存在であると定義することができるのである。

これらは常識的な判断において、ビッグバンがエネルギーの拡大であるならば、これら仮説は真実を有することができるのである。

ゼロというバランスの崩壊が、ビッグバンであるという仮説を提起することにおいて、これらが定数のエネルギーの拡大における空間の創造とすべての物理現実の形成を行うと考えることができるのである。

これらがエネルギーの拡大であるという仮説は、すべての物質は、 $m=E/c^2$ において形成するという仮説は提起できるのである。

これらはまた時間への定義が、全てにおける共有の変化であると特定するものである。これらは  $c^2$ という現実への考察を求めるものである。

これらはまた、ビッグバン後初期における高密度の凝縮されたエネルギーという現実において、光の充満という現実が存在したはずであり、物質の形成における、 $m=E/c^2$ という定式が、真実味を帯びてその考察を可能とできるのである。



また空間の拡大において、空間の存在を可能とすることがその張力におけるバランスであるならば、空間の最大拡大というエネルギーとのバランス形成における宇宙の拡大の停止という現実の存在を提起できるのである。

ゼロバランスの崩壊とエネルギーの拡大が、ビックバンと宇宙という現実であるならば、エネルギーが全てを形成し、エネルギー保存の法則が唯一の法であるという理解は可能である。

これにおいて、 $E=mc^2$ という定式と  $m=E/c^2$ という定式が、これら現実への説明を得ることは可能であると考ええる。

$$E=mc^2$$

$$M=E/c^2$$

$$C^2=E/m$$

これらはビックバンの形成への正しい考察の基盤として提示できるのである。これらはどのようにビックバンが形成されたかへの考察を可能とできるものである。

$$C=\sqrt{E/m}$$

これらは光のスピードの形成への正しい理解であると考えられる。ルート $\sqrt{\quad}$ という概念は、物理現実化における光の存在とスピードの形成がどのように与えられるのかへの正しい考察であると考ええる。

$m=0$  において  $m=E/c^2$ と  $E=mc^2$ が、存在する時  $c$  は一定であるから、 $E=0$ となる。もしこれがビックバン以前の状態であるならば、 $m$  に定数が生まれた時、ビックバンが生まれると考えることができる。

これがゼロのバランスの崩壊であり、宇宙の誕生であると仮定できるのである。これらは歪みという現実が存在し、その歪みは、すべての物理現実を可能とする基盤であると考えられる。